

研究会特集への感想

山岡栄市

雑事に追われ「研究通信」「六二号やつと一號しました。よく判らぬ点もありますが、そう簡単に結論の出るものでもありませんので、考え方や意見の多様性も結構と存じます。併しまだ「同じ次元を嘗々めぐりしているのではないか」という批判が出ても大変です。やはり焦点はなるべく明確にしておく必要がありましょうね。その点で高橋明善さんの発言（一五頁下段後半）などが参考になる

ようになります。そしてそれは会員の大多数に理解されうる共通の広場のとうに思いますが如何でしょう。

「村落社会の変化に対する推進力」の「対する」という言葉がどうもピンと来ない点が私にはあるのですが…。ともあれ、村を構成しているメンバーが非常に異質化して來てくるし、農民層の分化も進んでいますので、

一、農民層の変化。(1)農基法以後における土地所有の変化と動向。(2)種々の原因による經營形態の変化（兼業化・協業化・法人化・請負耕作等々）

二、農民生活・農民組織の変化。(1)都市化に伴う変化。(2)農業・農村政策に対応する変化。

三、部落機能の変化と生活圏の拡大。そのさい、阻止力としての村落共同体的特質。推進力としての農民のエネルギー＝地域社会の再編成。外的インベクトリ自由化の問題等。

さてわかりきつたことを書並べましたが会員の多くが討議や発表に参加しやすいテーマに要約していくことが大切と思考します。